

平成30年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名：スポーツ振興課

担当名：総務・施設担当

内線：6951

(単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B19	スポーツ医・科学拠点施設・水泳場整備事業費			一般会計	総務費	県民費	県民活動推進費	県民スポーツ振興費	
事業期間	平成28年度～平成32年度	根拠法令	スポーツ基本法第4、6、7、12、14、16、18、21条、埼玉県スポーツ振興のまちづくり条例	宣言項目	11	オリンピック・パラリンピックなどを契機とした地域の活性化			
				分野施策	061350	スポーツの振興			
1 事業概要 アスリートや子供から高齢者までが集い、競技力向上や健康増進を図ることができるスポーツの拠点として、スポーツ医・科学拠点施設及び水泳場の一体整備に向けた検討を行う。 (1) スポーツ医・科学拠点施設・水泳場整備事業費 経費削減による支出等の減 △2,713千円				5 事業説明 (1) 事業内容 ア スポーツ医・科学拠点施設・水泳場整備事業費 40,595千円(当初 43,308千円) ⑦ 基本計画策定等 整備場所や施設の内容、規模等を決定する基本計画の策定等を行う。 ⑧ 整備手法の検討調査 民間活力を導入するなどの整備手法について検討調査を行う。 (2) 事業計画 平成30年度～ 基本計画の策定、整備手法の検討調査 平成31年度～ 実施計画の策定 平成32年度～ 実施方針・要求水準書の作成・公表、特定事業の選定 平成33年度～ 民間事業者の募集・決定、契約締結 平成34年度～ 設計、工事等 (3) 事業効果 ア 水泳場 最先端の技術で競技力向上や健康増進をサポートする。 国内主要大会が開催可能な規模とする。 イ スポーツ医・科学拠点施設 スポーツ医科学の知見を活用し、アスリート育成・支援を行うとともに、その知見を一般の県民の健康づくりなどにも生かす。 ウ 一体的な整備の利点(水泳場、スポーツ医・科学拠点施設等) ⑦ 共通する施設・設備を一体的に整備・活用することで、建設経費・維持管理経費を削減できる。 ⑧ プール(運動の実践)と医科学サポートの相乗効果により、施設の魅力・価値が高まることで、利用者の増大につながり、賑わいが創出される。 ⑨ プール単体に比べ、両施設の有効活用が可能となり、民間の創意工夫が一層期待できる。 (4) 補正予算の概要 経費削減による支出等の減					
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)									
3 地方財政措置の状況 なし									
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×2.5人=23,750千円									
予算額		財 源 内 訳						一般財源	補正後の 予算額
決定額	△2,713	諸収入						△2,713	40,595
現計額	43,308	3						43,305	